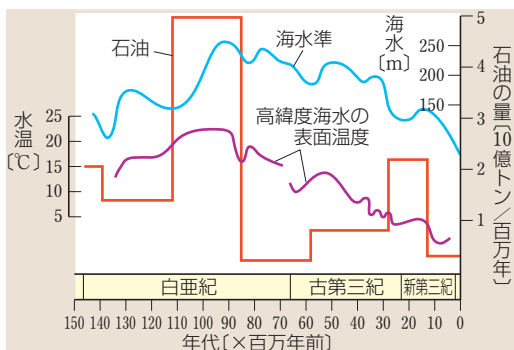


●**中生代の気候**● 中生代は、顕生代の中でも特に温暖な気候が長く続いた。極地域の氷がとけたので海水準も上昇し、海中の生物の生息域となる大陸棚のような浅海域の面積が拡大した。そのため、そこに生息する生物が増え、大量の生物の遺骸が地層中の有機物として埋没し、現在の石油のもととなった。

しかし、6600万年前の白亜紀末に起きた急激な環境の変化のために、中生代を代表する恐竜やアンモナイトなどの多様な生物が絶滅し、中生代が終わった。



▲図 23 白亜紀の温暖化と石油の量

C 哺乳類の時代 (新生代)

新生代^{a)}は、中生代の温暖な気候を引き継いで始まるが、後に寒冷化して氷河の発達する時代へと移り変わった。新生代は、前半の古第三紀と後半の新第三紀に区分され、特に最後の約 260 万年間は第四紀とよばれている。

新 生 代								代
古 第 三 紀			新 第 三 紀		第 四 紀			紀
きょうしん 暁新世	ししん 始新世	ぜんしん 漸新世	ちゅうしん 中新世	せんしん 鮮新世	こうしん 更新世	かんしん 完新世 (現世)		世
66	56	34	23	5.3	2.6	0.01		[X百万年前]

▲図 24 新生代の年代区分

●**古第三紀・新第三紀**● 新生代の前半は、中生代からの穏やかな気候が続いた時代である。陸上の動物では恐竜にかわって哺乳類が繁栄し、古第三紀の初めには現在の哺乳類のほとんどの種類の祖先が出現した。古第三紀の

a) Cenozoic Era